

「社会福祉法人松籟会」

～地域に屋根のないホームを～

一、法人・施設の概要

法人名 社会福祉法人松籟会
理事長 仲兼久 文政
事業所名 特別養護老人ホームかりゆしぬ村
施設長 仲兼久 文政
住所／名護市宇茂佐一八七三―
TEL／〇九八〇一五三一―九三四

二、地域貢献実践の概要

・事業名

在宅老人夜間巡回(ナイトパトロール)福祉サービス事業

・事業内容

施設職員と地域ボランティア(福祉隣り組)が一緒に、市内遠隔地・山村地域に住む独居老人等を夜間巡回訪問し、安否確認等を行う。

・開始年月日

平成六年十月十九日

三、実践に至った経緯と現状、課題

「昨晩は気分が悪くてね、もしかしたら死ぬんじゃないかと不安で眠れなかったよ。」特別養護老人ホームからゆしぬ村のデイサービスに通う利用者が、職員

に漏らした声である。それを聞いた職員は、「ハッと胸を突かれるような思いを受けたという。これまで、利用者が夜間という生活不安を抱えているのか気にはしていたが、適切な対応策を考えきれなかった。それが利用者の一声で法人としてどういう支援ができるのか考える契機になった」と、今から約十年前の様子を仲兼久所長は語った。

ゴールドプラン以降、高齢者福祉サービスの基盤整備が図られたが、在宅の高齢者の夜間時の緊急対応は今なお不十分だ。名護市の場合、特に山間、遠隔地に住む独居老人の緊急対応について役所や関係者間で検討がされてきたが、事の重要性から一刻も早い事業開始が望まれるため、法人の自己財源を投入し、全国的にも例がない取り組みが動き出した。

事業開始当初、特養と併設するデイサービスセンター・在宅介護支援センターの職員らがボランティアにより、二人組で独居老人等を訪問し、体調をチェックしながら食事の摂取状況、火の元の安全等を確認した。対象者二十人を二コースに分け、二軒あたり週二〜三回、約二十〜三十分の時間をかけ滞在していたが、夜間一人で過ごす寂しさから、時間を忘れる程会話が弾んだ。当初、「そんな短時間

間で意味があるのか」と批判されたが、訪問中に倒れた老人が救急病院に運ばれ二命を取り留めた例もあったという。当時の現場責任者の国場多津子在宅福祉課長に話を伺った。「私達が定期的に訪問することにより、デイサービス利用中には気づかなかったことを本人が教えてくれるようになった。利用者との信頼関係を実感した瞬間でした。何より職員が地域をより知ろうとする意識が芽生えたことは、法人の大きな財産になりました。」

法人がこれまで培ってきた介護のノウハウを地域に提供・還元することは簡単だ。大事なものはその方法にある。地域住民が持つ感性を無視して、ノウハウや人的資源等を投入しても、それは単なる押し付けに他ならない。老人の不安が大きくかつ他の機関では対応できない夜間の見守りは、家族や地域住民からの期待も大きかった。法人と職員の地道な活動が地域に伝わり、やがて住民自ら協力員となり子供会も一緒に協力する等、担い手の裾野が広がった。

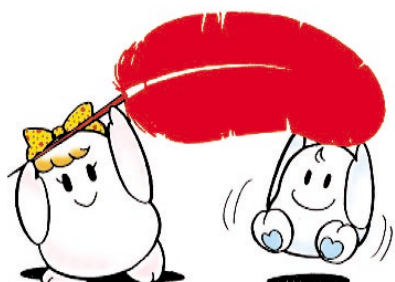
実は、法人の本当の狙いはそこにあった。「法人が前面に出るのは最初だけ。きっかけさえ作れば、後は地域が自然に考える。地域ができることは地域に任せ、法人は後方支援に徹する。」と仲兼久所長は語る。そこには法人と地域の役割分担や関係性が線引きされた「地域の未来デザイン」が描かれていた。

平成七年、これまでの実績が認められ、

国民の善意のシンボルである赤い羽根共同募金運動が始まります。今年も募金運動が、厚生労働省の告示により十月一日から十二月三十一日までの三ヶ月間にわたり「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに北海道から沖縄まで全国斉に展開されます。募金運動初日の十月一日には、全日空株式会社との協力により第四十三回「赤い羽根空の第一便伝達式」が那覇市のパレットくもじ前にて開催されます。

伝達式では、厚生労働大臣から県知事・那覇市長へ、中央共同募金会会長から沖縄県共同募金会会長・那覇市支会会長へそれぞれメッセージと赤い羽根が、全日空客室乗務員によって伝達されます。このあと、那覇観光キャンペーンレディなどが街頭募金を行い、道行く人々に協力を呼びかけます。

また、この日は宮古・八重山地区でも、日本トランスオーシャン航空の協力により客室乗務員から県知事メッセージと赤い羽根が伝達されるほか、各支会・分会でもそれぞれ募金の出発式が行われます。



県単独補助モデル事業として衣替えした。補助事業が切れた今でも、協力員の手による巡回訪問やミニデイサービス事業が実施される等、「地域の福祉力」が着実にレベルアップした。今後は関係者間の課題の共有化と役割分担を明確にしながら後方支援のあり方を模索することが必要になってくるであろう。

四、今後の展望

松籟会は、地域の福祉力を支えるために、法人機能の地域展開の方策を検討している。最近整備した宅老所やグループホーム等に相談機能を持たせることに加え、小規模多機能型の「地域サテライト構想」に着手したいと考えている。法人と独居老人という点と点で始まった事業が、地域を構成する様々な関係者間の幾重もの線で繋がった時、「安心」「信頼」がキーワードの「地域に屋根のないホーム」が実現できるのではないだろうか。

五、今回のチャレンジに思う

「このサービスは先駆的な事業とは思っていない。当たり前のことを当たり前にやっているだけ。」松籟会の経営理念は単純明快だ。その当たり前のことができないために社会福祉法人の公共性・公益性が今問われている。この経営理念と職員の「気づき」が重なり、地域にそのアンテナがしっかりと向いた時、地域の福祉力「再生」の大きな原動力となることを示してくれている。

さらに宮古地区では、共同募金キャンペーン車輛パレードも予定されています。今年度の募金使途計画は、在宅福祉事業やボランティア育成事業など、地域福祉活動を行っている市町村社会福祉協議会の活動費として一億四千八百二十万円(六二・二%)、地域福祉活動団体の支援や民間社会福祉施設充実のために四千二百万円(二七・六%)、その他全県的な福祉事業推進のために四千八百万円(二〇・二%)が配分をする計画になっています。

赤い羽根共同募金運動がスタートします!

目標額 2億3,820万円

運動期間 10月1日〜12月31日
スローガン/地域の福祉、みんなで参加



皆様の温かいご支援、ご協力をよろしくお願いします。



沖縄県共同募金会
TEL.098-882-4353
FAX.098-882-4270

<http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubo/>